

ブリ類養殖振興勉強会

【課題名】 海外のブリ類養殖の状況

【講演者所属】 水産研究・教育機構増養殖研究所育種研究センター 奥澤公一

1 はじめに

サケのつぎはブリか？といった声もよく聞かれる。世界の様々な国々がブリ類を養殖し、寿司、刺身商材として北米、欧州、アジアへ供給している。本講演では、世界のブリ類養殖の現状を俯瞰し、日本のブリ類養殖が進むべき道を考える一助とする。あわせて昨年10月に発表された米国の「海面養殖戦略」の骨子を紹介する。

2 ブリ類養殖の基本データ

世界では、6種類のブリ類が養殖されている。日本ではブリ、カンパチ、ヒラマサが養殖されている。ヒレナガカンパチはハワイで養殖が始まったが、今後メキシコに拠点が移る可能性がある。カリフォルニアヒラマサは、今後米国やメキシコで生産量が増える可能性がある。南半球ヒラマサは豪州、チリおよび南アフリカで展開されている。2014年のFAOの統計では、全世界のブリ類生産量は157千トンで日本はその86%を生産している。日本のブリ類生産が養殖生産数量ガイドラインを参考に14万トンと横ばいないし減少傾向にあるなか、ヒレナガカンパチ、ヒラマサの養殖生産は増加していると思われる。海外のブリ類養殖は人工種苗を使い、沖合い養殖や閉鎖循環システムなど環境影響の少ない持続的な形態を採用し、食品認証を重視する欧米の市場に受け入れやすくなっている。

3 各国のブリ類養殖

米国・メキシコ：カンパチファーム社はヒレナガカンパチ（コナカンパチ）養殖をハワイで展開していたが、養殖場の制約と市場への距離の問題から生産拠点を北西メキシコの沖合いへ移した。米国の寿司、刺身用ブリ類の需要は年間5万トンとされ、米国市場への供給主体である。また、カリフォルニア沖でカリフォルニアヒラマサの沖合い養殖の計画があり年間5千トンの生産を計画している。

豪州：南オーストラリア州で南半球ヒラマサの養殖がミナミマグロ養殖が頭打ちになる中生産を伸ばしている。主要市場はオーストラリア、欧州、アジア。

チリ：ACUINOR社は種苗生産から養殖生産まですべてを閉鎖循環システムで行い周年生産可能で欧州、米国、アジアに輸出している。

その他：カンパチ養殖は地中海でも注目され、90年代から研究が行われスペイン、ギリシャ、イタリア、クロアチア、トルコが取り組んでいる。しかし、人工採卵などが難しく、2012年でも生産量は約2トン。一方、マルタでは約500トン生産されている。デンマークのSashimi Royal社は陸上でのカンパチ養殖の計画を進めていて、2017年に1,200トンの出荷を見込み、EUを主なターゲットとしている。

世界のブリ養殖の主要ターゲットは**寿司、刺身**の消費者であり、その意味では日本は世界最大のマーケットである。日本のブリ類養殖業は国外への輸出を増加させるとともに国内市場の防衛も念頭に置き、競争力を高めるための方策をとっていく必要がある。